

タワーレコード フリーマガジン 『musée』・SPIRAL 『CAY』

合同企画・制作イベント第五弾

intoxicate_05 ~ SAKURA chill out the flowers 開催！！

~ “お花見” をテーマにライブ・映像・講談・屋台で構成 ~

タワーレコード株式会社（本社：東京都品川区 / 代表取締役CEO：キース・カフーン）では、2003年4月20日（日）に、同社フリーマガジン『musée（ミュゼ）』¹とSPIRAL『CAY（カイ）』²（レストランBAR・SPIRAL B1F/南青山）の合同企画・制作ライブ・イベント「intoxicate（イントキシケイト）」の第五弾、「intoxicate_05 ~ SAKURA chill out the flowers（イントキシケイト 05 サクラ チル・アウト・ザ・フラワーズ）」をSPIRAL『CAY』にて開催します。

毎回様々なテーマにより構成している「intoxicate（イントキシケイト）」。

今回のイベントは“お花見”をテーマに、ライブ・映像・講談・屋台で構成。うららかな春の日を思い起こさせるウクレレのつじあやの、日本フォーク界を代表する高田渡、なごみ系トイ・ポップのウエアハウス、6月公開予定の映画『あじまのウタ 上原知子 天上の歌声』（青山真治監督最新作）でもフィーチャーされた、「沖縄ポップ」と言われる音楽スタイルを確立・追求するりんけんバンドの上原知子と照屋林賢によるユニットのライブと、監督本人を迎え、上記作品のメイキングも上映します。さらに、講談師として人気の神田山陽の一席も行い、「intoxicate」ならではの個性的なイベントとなります。会場では、現在『musée（ミュゼ）』の表紙を手がけている写真家・内藤忠行氏の“桜”をモチーフにした映像が彩りを添え、会場内に設置された屋台には、おでんやタイカレーなどが並び、“お花見”の雰囲気を一層盛りたてます。（各アーティストのプロフィールは別紙ご参照下さい。）

本イベント「intoxicate（イントキシケイト）」は、タワーレコードのフリーマガジン『musée（ミュゼ）』のコンセプトをそのまま具現化し、青山 CAY の協力を得て 2001 年 12 月からスタートしたイベントです。イベントに登場するアーティストや音楽についても、『musée（ミュゼ）』の編集方針に沿って、ジャンルやカテゴリー、有名無名にとらわれず、様々なキャスティング、セレクトを行なっています。このイベントを通して、タワーレコードのユーザーに対し、既存の価値観では捉えにくい視点、既存の価値観では生まれにくい好奇心をかき立てる場を提供することにより、更なる音楽への興味・関心を促します。

タワーレコードでは、今後も更に発展させた形で定期的な開催を予定し、20代後半から40代後半をターゲットに、大胆な企画を行なっていきます。次回開催は6月を予定しています。

過去の開催内容は下記の通り

- 「intoxicate_01 ~ Red“tight skin”」テーマ“リズム”（2001年12月26日開催）
- 「intoxicate_02 ~ White“soft skin”」テーマ“撥弦楽器”（2002年2月24日開催）
- 「intoxicate_03 ~ GODARD MINUS ONE」テーマ“ゴダール”（2002年6月8日開催）
- 「intoxicate_04 ~ blue lotus」テーマ“JAZZ”（2002年12月27日開催）

1 『musée』（ミュゼ）

1996年創刊。現代音楽・クラシックを紹介するフリーペーパーとして出発する。当初から国内では紹介される機会のなかった分野の音楽情報を掲載し、若い評論家、若いリスナーから熱烈的な支持を受け、今日に至る。現在では音楽以外の情報（映画、本、伝統芸能など）に加え、ユニークな連載記事（楽しいお買い物紹介“トロピック・アピタイト”など）を掲載するなど、単なる情報誌という枠を超えて、読み物として楽しむ読者も多い。1999年にはECMというレーベルの30周年にあわせて、独自のイベントを企画し、話題となった。音楽を基本テーマとして、様々な話題を取り上げるという編集方針により、世代を超えた読者にアプローチしている。

2 『CAY』（カイ）

東京のアートの発信地、青山スパイラルの1フロアとして、ビル創設の17年前に創業。高級タイ料理のレストランとしてスタートしたCAYは、当初よりワールドミュージックを中心としたライブ・イベントを開催し、多様な文化の発信拠点として盛況となる。現在は、平日月曜日から金曜日までタイレストランとして営業、土日祝日は多目的なイベントスペースとしてジャンルを問わず、音楽を中心とした様々なイベントを開催中。そのイベント内容は、ワールドミュージックから最先端のエレクトロニックミュージックまで多岐に渡り、確実に東京の今を感じさせる。

イベント詳細

- 名 称： intoxicate_05 ~ SAKURA chill out the flowers
(イントキシケイト 05 サクラ チル・アウト・ザ・フラワーズ)
- 日 時： 2003年 4月 20日(日)
16:00/オープン 17:00/スタート
- 場 所： CAY (SPIRAL B1F/南青山)
- 出演アーティスト： ライヴ
- ・上原知子、^{てるやりんけん}照屋林賢(りんけんバンド)
 - ・つじあやの
 - ・高田渡
 - ・ウエアハウス
- 講談
- ・^{かんださんよう}神田山陽
- 映像
- ・青山真治
 - ・^{まきゆい}内藤忠行、^{まきゆい}牧唯 (PM-X)
- 全7アーティストのプロフィールは別紙3ページ目をご参照下さい。
- チケッ ト： 前売 ¥3,300(税込) 当日： ¥3,800(税込)
- ・CAY (03-3498-5790)
 - ・チケットぴあ (03-5237-9999 ・ Pコード：147-974)
 - ・ローソンチケット (03-5537-9999 ・ Lコード：35658)
 - ・タワーレコード渋谷店
 - ・タワーレコード新宿店
- お 問 合 せ： CAY (03-3498-5790)
- 企 画・制 作： タワーレコード株式会社 ミュゼ編集部 / 株式会社ワコールアートセンター SPIRAL
- 協 賛： 株式会社イーストワークエンタテインメント / 株式会社コルグ / エプソン株式会社 / パール楽器製造株式会社 / 株式会社レントラックジャパン

タワーレコード 会社概要

- 会社名 タワーレコード株式会社 / TOWER RECORDS JAPAN INC.
- 創立 1979年 8月
- 設立 1981年12月
- 資本金 約29億円(完全希薄化後)
- 事業内容 音楽ソフト、映像ソフトおよびこれらの付属品ならびに楽譜、ポスター・書籍等の
輸出入・卸・販売。同オンラインでの販売。楽曲および著作物の著作権管理。
楽譜の製作、出版および販売。楽曲の原盤の製作および広告宣伝。
- 代表者 代表取締役CEO キース・カフーン
代表取締役COO 森脇 明夫
取締役CFO 上野 頼広
- 従業員数 1,775名 (うち正社員 365名)
- 沿革 1979年、アメリカのMTS社の日本支社としてスタートし、1981年に日本法人タワーレ
コード株式会社となる。2002年10月、MBOによる独立、新体制を発表。日本国内に55の直
営店舗を展開している。
また、Eコマースサイト「@TOWER.JP」、音楽情報サイト「bounce.com」の運営、発行
部数40万部の『bounce』などフリーマガジンの発行も行なう。

お問い合わせ

タワーレコード(株)広報室 木田暁子 伊早坂恵美 TEL: 03-3496-5009 FAX: 03-3496-5022
E-mail: press@tower.co.jp <http://www.towerrecords.co.jp/>
〒150-0041 東京都渋谷区神南1-21-1 日本生命渋谷ビル9F

別紙 : アーティスト プロフィール artist profile

りんけんバンド ~ リーダー照屋林賢が1977年に結成以来、三線、島太鼓などの沖縄の伝統的な楽器と、ドラムス、キーボード、ベースなどの現代的な楽器を巧みに融合させ、「沖縄ポップ」といわれる新しい沖縄音楽のスタイルを確立し、追求する。3月19日には、13枚目のオリジナル・アルバム『EISA (エイサー)』と照屋林賢監督作品『ティンク・ティンク』DVDを同時リリース、さらには6月に、映画『あじまあのウタ 上原知子 天上の歌声』の公開を予定。(http://www.rinkenband.net/)

照屋林賢(てるやりんけん) : 1949年10月、コザ(現・沖縄市)生まれ。1977年に<りんけんバンド>結成。1990年代以降、日本のポップシーンに旋風を巻き起こしてきた。沖縄を拠点に、アジマア/りんけんレコードを設立し、独自の活動を展開している。
上原知子(うえはらともこ) : 沖縄県糸満市生まれ。6歳で民謡の世界にデビュー。ファミリーバンド<糸満ヤカラーズ>の一員として活躍し、豊富な芸歴を誇る。1988年、りんけんバンド加入、1997年、ソロデビュー。海外のミュージシャンとのコラボレーションで新境地を開く。

つじあやの ~ 1978年京都生まれ。大学のフォークソング部でフォークユニット<うららか>を結成。作曲などの新たな活動を始める。1998年インディーズレーベルLD&Kよりサンプラーカセット『悲しみの風』、ミニアルバム『うららか』リリース。1999年ビクター/スピードスター・レーベルよりミニアルバム『君への気持ち』リリース。フルアルバム『春は遠き夢の果てに』『春蜜柑』『BALANCO』と毎年リリース。6月26日に発売されたスタジオジブリ最新作『猫の恩返し』の主題歌として使用されたシングル『風になる』がスマッシュヒット。夏にはROCK IN JAPAN FESTIVAL、ウクレレピクニックなど野外フェスティバルにも初参加。2003年3月発売のシングル『桜の木の下で』は、TBS系テレビ全国ネット『世界・ふしぎ発見!』エンディングテーマに。5月4枚目のフルアルバム発売予定。(http://www.jvcmusic.co.jp/speedstar/uraraka/index.html)

高田渡(たかだわたる) ~ 1949年生まれ。1968年第3回関西フォークキャンプに参加、『自衛隊に入ろう』をうたって喝采を浴びる。『高田渡/五つの赤い風船』でレコードデビュー。アルバム『汽笛が田舎を通るその時』『ごあいさつ』『系図』『石』『フィッシング・オン・サンデー』『バーボン・ストリート・ブルース』『ねこのねごと』『渡』『猿』『ベスト・ライブ』『日本にきた外国詩...』他。著書に、『バーボン・ストリート・ブルース』(山と溪谷社)。日本を代表するフォークシンガー。

ウエアハウス ~ <bondage fruit> で活動を共にする鬼怒無月(g)、高良久美子(per)、大坪寛彦(b)の3人よって98年結成。インプロヴィゼーション主体の<bondage fruit>の音楽の中で取りこぼされてしまった要素...タンゴ、プリティッシュ・サイケ、ある種の音楽への率直なオマージュ作品、記譜された緻密なアンサンブル...に取り組むことを目的として、<bondage fruit>のサイドユニットとしてスタート。バンド名には“倉庫”にしまっているものをもう一度ひっぱりだしてみようじゃないか、という意味が込められている。ジャグ、デキシー、ジャズ、タンゴ、トラッドと言った音楽のフェイクを基本としていながら、実は緻密な計算と編集された、上質なごみ系トイポップを聴かせる。2002年8月にファースト・アルバム『Endless game of Cat and Mouse』をリリース。音のイメージにぴったりな高野文子描きおろしのジャケットも話題を呼んだ。

鬼怒無月(きどなつき)(g) : プログレからフラメンコまで弾きこなすスーパーギタリスト。勝井祐二(vl)とレーベル【まぼろしの世界】を主宰することでも知られる。<warehouse>、<Bondage Fruit>の他、<梅津和時KIKI BAND>等で活躍している。

(http://mabo-kido.hp.infoseek.co.jp/)

高良久美子(たからくみこ)(per) : 東京芸術大学器楽科卒業後、室内楽、吹奏楽、ミュージカル、スタジオワークなどの活動を始める。<仙波清彦とはにわ隊>に参加。<Warehouse>、<Bondage Fruit>のほかフェビアン・レザ=パネ<ボイスネシアトリオ>、おたか静流や巻上公一のセッション等に参加している。

大坪寛彦(おおつぼひろひこ)(b) : ジャズからポップスまで多岐にわたって活躍。<warehouse>、<Bondage Fruit>のほか谷川賢作(P)高瀬麻里子(vo)とDIVAを結成、現代詩に音をつけるという活動をおこなっている。

三代目 神田山陽(かんださんよう)(講談師) ~ 昭和41年北海道網走出身。平成2年1月 二代目神田山陽に入門、北陽。落語芸術協会前で前座修業。平成6年4月二ツ目昇進。平成14年8月 落語芸術協会真打に昇進、三代目神田山陽を襲名。得意ネタ : 『青龍刀外伝』『谷風情相撲』など古典のほか、『レモン』『地球の柱』『鼠小僧外伝』など自作の新作講談で注目を浴びる。出囃子 : 清正の虎退治。趣味はドラム。平成10年国立演芸劇場花形演芸会銀賞受賞。平成14年度文化庁芸術祭新人賞受賞。

(http://www.bekkoame.ne.jp/~iwahara/)

青山真治（あおやましんじ）（映画監督）～ 1964年生まれ。福岡県北九州市出身。高校時代パンクバンド＜UP BEAT UNDERGROUND＞を結成、後に＜UP BEAT＞としてメジャーデビュー。立教大学卒業。助監督、批評家を経て、96年『Helpless』で商業映画デビュー。『チンピラ』『WILd LiFe』『冷たい血』『SHADY GROVE』などのあと、2000年、『EUREKA』がカンヌ国際映画祭で国際批評家連盟賞と全キリスト協会賞を受賞。2001年、処女小説『ユリイカ』が三島賞を受賞。監督作品『月の砂漠』は2001年の第54回カンヌ国際映画祭に出品された。最新作『あじまあのウタ』はテアトルタイムズスクエアにて6月公開予定。著書に、『われ映画を発見せり』（青土社）『月の砂漠』（角川書店）。

PM-X ～ JAZZ的感觉を写真に応用しながら、その可能性を探求してきた写真家・内藤忠行が“視覚と聴覚の相乗”をコンセプトに、音楽家、ダンサー、VJ、建築家など様々なアーティストと写真を通してコラボレートするプロジェクト。

内藤忠行（ないとうただゆき）（写真家）：'64年よりTOKYO-NYCでJAZZを撮り始めジャズの巨人たちの表現に惹かれ、それを写真に応用してきた写真家。70年代に、渡辺貞夫、日野皓正の写真集やニューオリンズなどの展覧会を通しJAZZに深く関る。ジャズへの傾倒は、'74年から始まるアフリカ取材へと展開し、ゼブラを扱った映像『ZEBRA』では、ジャック・ディジョネットとレスター・ボウイを起用し、レコード制作も行う。また、幻想的な桜の世界を表現した『SAKURA-COSM』や四季折々の自然が加わることで美が表出する『庭』などを通して日本人の美的DNAを伝えている。蓮の多面を現代に対比した『BLUE LOTUS』など精力的に活動を行っている。敬愛するMILES DAVISのサウンドを映像化へと、常に音を感じながら撮る写真は、ミュージシャンやパフォーマーなどのビジュアルへと多様に発展している。牧唯と共に＜PM-X＞として様々なイベントで活動。

(<http://www.p-om.net/>)

牧唯（まきゆい）（Moving Design）：繊細なトーンで綴るフォト・シンセサイズ、モーション・グラフィック、ウェブ・デザインなど中心に行なう。'97年より内藤忠行のデジタル・デザイナーとして多数の展覧会などを通しキャリアを積む。内藤忠行と共に＜PM-X＞として様々なイベントで活動。